

テニス留学時代@IMGアカデミー Part II

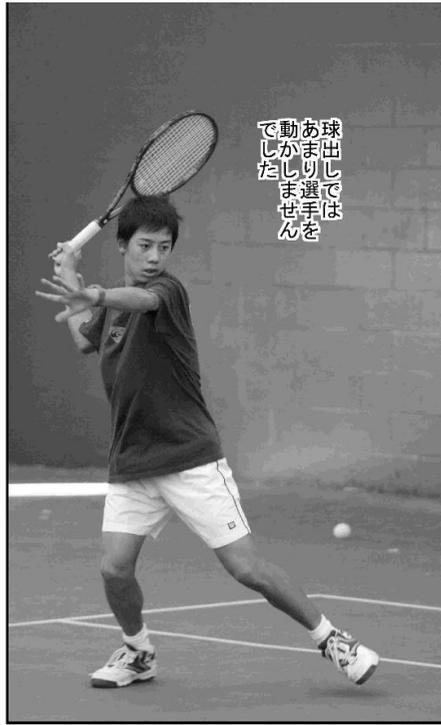
取材協力/戸田公平(ダンロップスポーツ テニス企画開発部) 作画/石川正順



日本の場合
いわゆる
『振り回し』
のような
選手を動かす
練習が多い
ですが

また

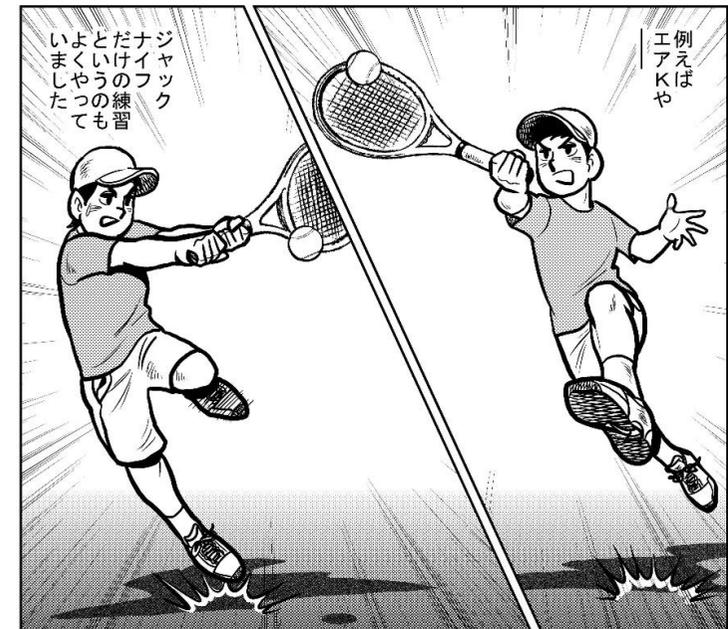
ふた



球出しでは
あまり選手を
動かしません
で



ボールが
当てる時の
感覚が重要だと
考えていた
米沢コーチは

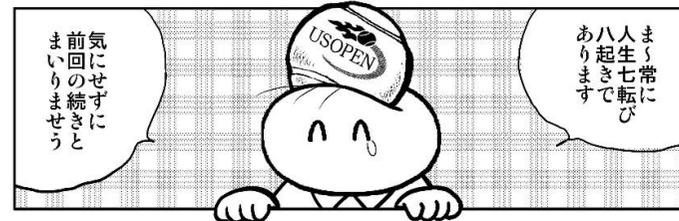


ジャック
だけの練習
とくやつても
いきました

例えば
エアクヤ



「常にボールを
しっかりと叩く
練習を優先
させていた
のです」



前にせず
まいると
きつと
ま

ま
八
あ
り
ま
す

課題練習

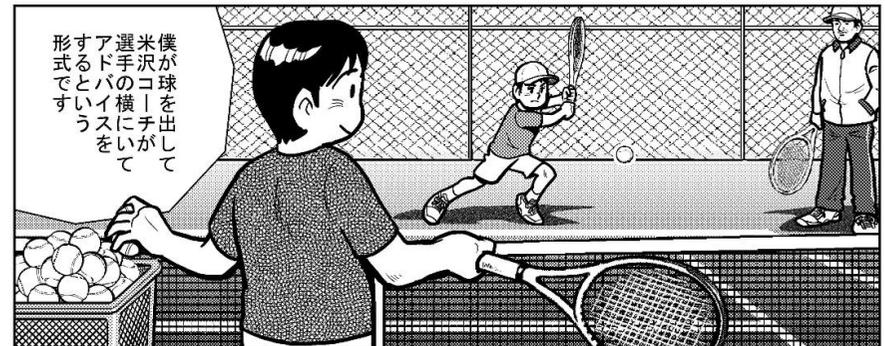
(先月号と同じ
出だしですが)
この漫画を執筆中
に
錦織圭は全米OPで
1回戦敗退して
しまいました



課題練習は
3人1組が
前日練習で
個別練習は
見つかつた
各選手のマ
ッチ練習を
見出しによ
う決してい
うものと

カ
カ
カ
カ

す
て



僕が球を出して
米沢の横にい
て
選手のマッ
チを
アドバ
イスす
形式で



1時間
ランニングや
ダッシュ



1時間
ウエイト

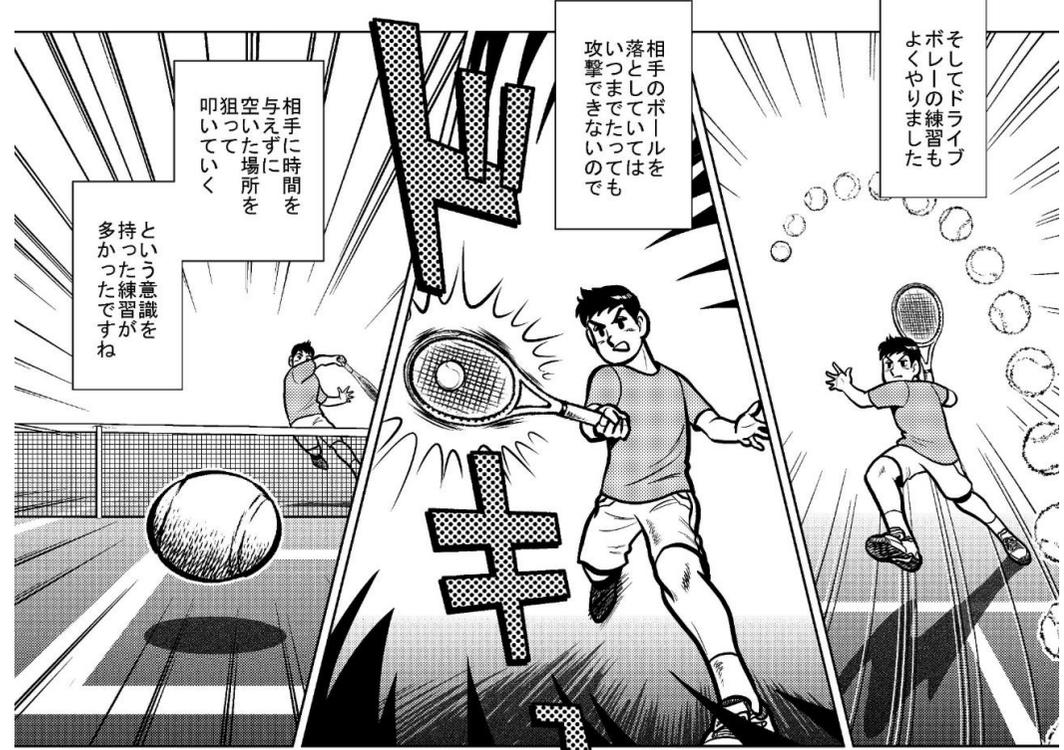


トレーニング

12時から
1時までは
トレーニング

相手に時間を
与えずに場所を
狙って叩いていく

という意識を
持った練習が
多かったですね



相手のボールを
落とすまでには
攻撃できないので

そしてドライブ
ボレーの練習も
よくやりました



他の2人特別に
運動神経が
優れている
わけではな
いけれど
強い1人な
りだったので
これやると
かました

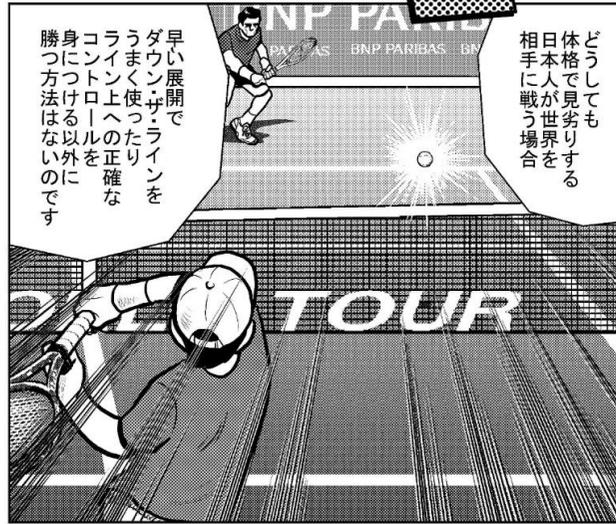


目や口など
取り入れて
みたりして
やりました



主は3人の中
で一番伸び
ます

そういえば当時のチームの
トレーニングを担当して
いた中村豊さん
(現在はシヤラボワの
「トレナ」が
おんなじやつで
ました)



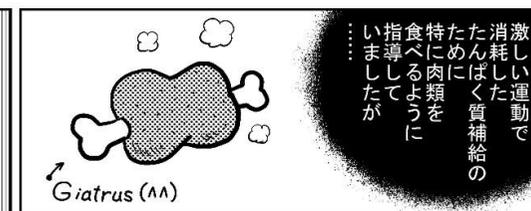
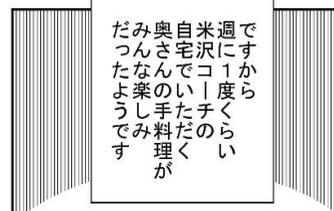
早い展開で
ダウンサーブを
うまく使ったり
ライン上への正確な
コントロールを
身につける以外の
勝つ方法はないので
です

どうしても
体格で見劣りする
日本人が世界を
相手に戦う場合

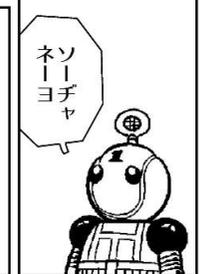


米沢言「手はわく」

3人にとっては
結構難しい
練習だったと
思いますが

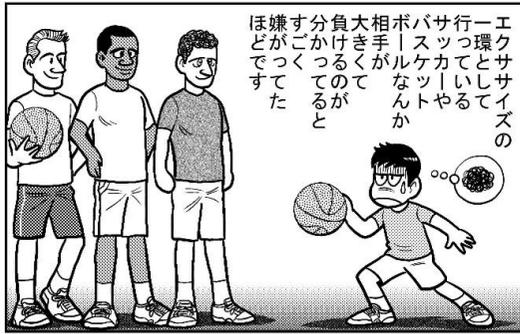


食事は『質より量』





しかしただ悔しがら
だけでなく
「この練習は、
試合のあの場面で
どう役に立つか」
を自分で考えて

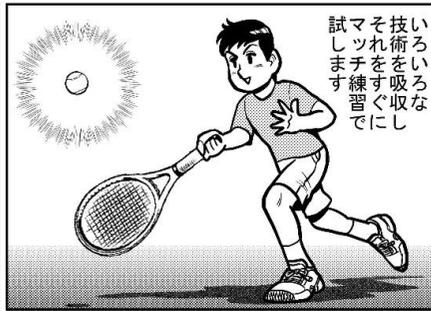


エクササイズの一環として
行っているバスケットや
ボールなんか
相手が大きくなると
負けるのが嫌がって
すこく嫌がって

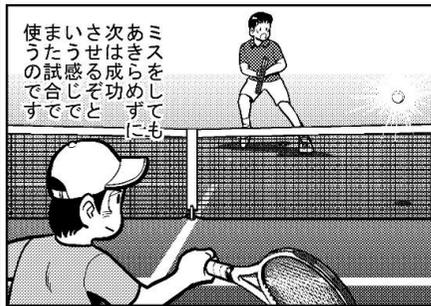


現在の彼の多彩なプレイを
引き出すために
思いつくあらゆる
練習を

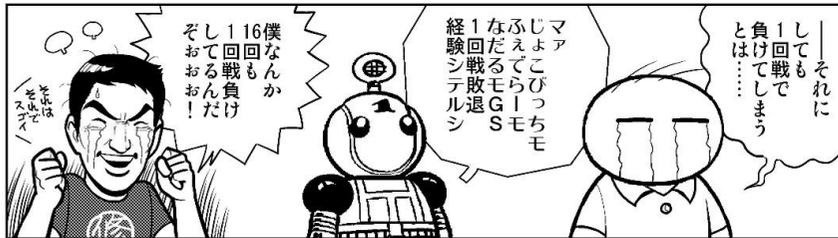
そういう性格が
大事な時に
簡単にドロップ
ショットなどを
繰り出せる
原動力とな
って



いろいろな技術を吸収し
それをすぐに
マツチ練習で
試みます



ミスをして
あきらめず
次は成功
させるぞと
いう感じで
また試合
使おう

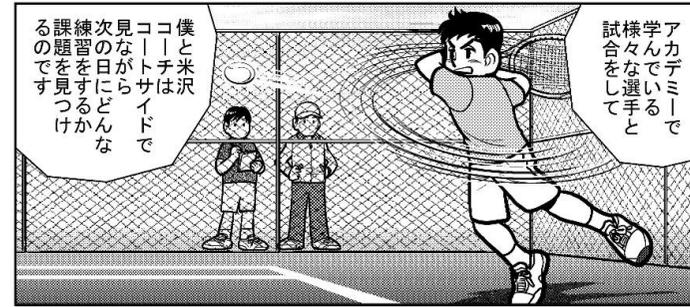


僕なんか
16回も
1回負け
ぞおん!

マア
ふよこびつちモ
なだるモGS
1回戦敗退
経験シテルシ

それに
しても
1回戦で
負けてしま
うとは……

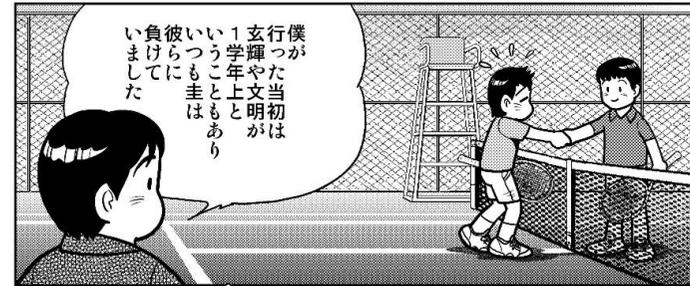
マツチ練習



僕と米沢
コーチは
見ながら
次の日に
練習をする
課題を見
つけ

アカデミー
学んで
様々な選
手と
試合を

学校が
終わると
マツチ
練習



僕が
玄輝や
1学年
いっ
彼らに
負けて
ました

1学年
いっ
彼らに
負けて
ました



半年
たつと
主の勝
率があ
るだけ
追いつ
けず

それが
3ヶ月
少しす
2人に
なり



彼は基本
TVゲー
なども
好き
なゲーム
で
負け
ず嫌
い

